

桐生の織物

伝統的工芸品

桐生を語る上で絶対に外せない「織物」ですが、その歴史はおおよそ1300年前にさかのぼります。当時の税制で上毛野国（おおよそ現在の群馬県）が納めるべき物品として絹織物が挙げられているように、すでに絹織物の産地となっていました。時は下って1600年、徳川家康の関が原出陣に際しては1日で2,410疋（着物4,800着分以上）もの旗絹を献上し、戦勝によって吉例の地として有名になりました。その後、江戸時代中期には西陣から、明治時代には海外から、最新の技術を次々と取り入れて発展を続けたのです。現在でも「桐生で揃わない織物はない」と言われるほど、織物関連業の集積地として、情報の発信地として不動の地位を占めています。

桐生織 7つの技法

1

お召織

おめしおり



桐生発祥の最高級の織物。徳川家斉が好んだことから「お召し」の名がつけました。独特の細かい凹凸が特徴です。

2

緯錦織

よこにしきおり 又は
ぬきにしきおり



単色の経糸に、八色以上の緯糸で文様を描き出します。

3

経錦織

たてにしきおり



三色以上の経糸と二色以上の緯糸で文様を表す織物です。

昭和52年、以下の七つの技法を持つ桐生織は通商産業大臣（当時）より「伝統的工芸品」に指定されました。

4

風通織

ふうつつおり



二重の生地を裏表に現わすことで柄を表現する、複雑な織物です。

5

浮経織

うきたており



二色以上の経糸を密に使い、刺繍のような滑らかな紋を織り出す方法です。

6

経緋紋織

たてかすりもんおり



経糸でかすり模様を表現し、さらに複数の緯糸で文様を織り出す、非常に手間のかかる織り方です。

7

縋り織

もじりおり



経糸が絡みながら緯糸と組み合わせることで、織り目に隙間ができる一風変わった織物です。



見学 買う

桐生織物記念館

本町
エリア

桐生市永楽町6-6

☎0277-43-7272

開 10:00～17:00

休 毎月最終土・日、8/13～16、12/29～1/3

開 JR桐生駅より徒歩5分

桐生織物協同組合の事務所として建築され、織物や織機の展示のほか、産地価格で織物製品が販売されています。

絹遺産群

(ぐんま絹遺産)

古くから養蚕・製糸・織物業が盛だった群馬県は、明治時代に入るといち早く近代的手法を取り入れて世界的な絹織物の産地となります。地域振興や観光に役立てるため、それら県内に残る養蚕・製糸・織物関連の建物や文化などを対象に登録がすすんでいます。桐生では県内最多となる18件が登録されています。(平成26年3月31日現在)



赤城型民家

A

桐生市新里町鶴ヶ谷460-1 ぐんま昆虫の森構内
☎0277-74-6441 (ぐんま昆虫の森)

赤城山南麓に多く見られる茅葺き屋根の前面中央を切り上げた建築様式で、屋根裏を養蚕に利用するために光と風を取り入れやすい構造になっています。

新里
エリア



MAEHARA20th

B

桐生市広沢町6-850-5
☎0277-46-1111

MAEHARA20thは、旧合名会社飯塚織物工場跡を活用したクラシックカーの博物館です。飯塚織物工場は機械設備が充実した個人経営工場の先駆けで、輸出向けの高級織物を生産していました。

川相広
エリア



日本織物株式会社発電所
及び煉瓦積み遺構

C

桐生市織姫町6-1
☎0277-46-1111

交 桐生駅より徒歩15分

日本織物株式会社が明治22年に運転を始めた水力発電施設跡で、現在残っているものは大正期のもの。工場や寄宿舎だけでなく、桐生市(当時は町)内の電灯にも利用されました。

本町
エリア



見学

旧模範工場桐生燃糸合資会社
事務所棟(絹燃記念館)

D

桐生市巴町2-1832-13
☎0277-44-2399

開 9:00~17:00 料 大人 150円 こども 50円

交 桐生駅より徒歩5分

大正6年に建築された燃糸工場事務所棟で、県内最古の洋風石造建造物です。かつては敷地内にノコギリ屋根工場が並び、建ち、糸の「撚り掛」を機械化した、全国6力所の「模範工場」の一つでした。現在は桐生市の郷土資料を展示しています。

本町
エリア



きゅうほりゆうおりものごうじょう
旧堀祐織物工場

E

桐生市巴町1-1126
☎0277-46-1111

開 平日 10:00~20:00 土・日・祝 9:00~19:00

交 桐生駅より徒歩5分

堀祐織物工場は、綿糸に人造絹糸、経糸に絹を使用し独特のリボン織の開発に成功しました。現存する石造のノコギリ屋根工場は、外壁を大谷石、内部を漆喰塗で仕上げられています。現在は、美容室として利用されています。

本町
エリア



本町
エリア

食べる

交 桐生駅より
徒歩10分

桐生市内で大規模な織物工場を操業していた金善織物会社が、大正10年ごろに建てたビルで、事務所として使用されていました。地上4階、地下1階建てで、県内でも初期の鉄筋コンクリート造りの建物であり、当時の桐生新町のシンボルの一つでした。

かなぜん
金善ビル

F

桐生市本町5-345
☎0277-46-1111



後藤織物

G

桐生市東1-11-35
☎0277-45-2406

開 見学は要予約

交 桐生駅より徒歩15分

現在も織物生産を行っている後藤織物。現存する木造のノコギリ屋根工場のほか繭蔵、織物倉庫などは、織物生産のシステムをそのまま現しており、予約すれば見学も可能です。

本町
エリア



もりひでおりもの
森秀織物

H

桐生市東4-2-24
☎0277-45-3111

交 桐生駅より徒歩15分

木造鉄板葺きの3連のノコギリ屋根工場は、現在も稼働している工場です。高級織物であるお召しの技術を活かし、文楽人形の衣装や歌舞伎の装束などを織るなど、桐生織物の伝統的技術の復元とその継承に努めています。

本町
エリア



旧曽我織物工場 ①

桐生市本町1-7-15
☎ 0277-46-1111

本町
エリア

開 お問い合わせください
交 桐生駅より徒歩20分

大正11年(1922)に建築された大谷石造り5連のノコギリ屋根工場には、屋根に換気塔が立ち、壁には丸型の換気窓が設けられています。重伝建地区内で見られるノコギリ屋根工場では代表的なものです。



桐生新町重要伝統的建造物群保存地区 ①

桐生市本町1及び2の全域並びに天神町1の一部
☎ 0277-46-1111

本町
エリア

交 桐生駅より徒歩20分

天正19年(1591)に桐生新町が形成されて以来、この地区は織物の中心地として桐生の経済発展を支えてきました。桐生の織物業は大正期から昭和初期に最盛期を迎え、当時の桐生新町の町並みには買継商や糸商、呉服商、染物業など織物業の店舗などが立ち並びました。



県繊維工場試験場 ①

桐生市相生町5-46-1
☎ 0277-52-9950

川相広
エリア

開 お問い合わせください
交 相老駅より徒歩10分

明治38年染織業の技術改良のために前身が設立され、のちに桐生と伊勢崎の試験場が統合されて現在の繊維工業試験場となりました。製織・染色・加工の研究ほか、遺伝子組み換えカイコ絹糸研究も行っています。

桐生織塾(旧青木家住宅) ①

桐生市梅田町1-802
☎ 0277-32-0366

梅菱境
エリア

6ページへ

開 毎週金・土 10:00~16:00 その他は予約見学
交 桐生駅より車で25分

旧青木家住宅は、明治初期に、エンジンやボイラーなどを備えた近代的な工場をもった「成愛社」の発祥の地です。現在は「桐生織塾」として、織物技術について収集した資料の公開や、手織り工房として利用されています。

桐生織物記念館 ①

桐生市永楽町6-6
☎ 0277-43-7272

本町
エリア

交 桐生駅より徒歩5分

昭和9年(1934)に桐生織物向上のため設立された桐生織物同業組合の事務所として建てられました。スクラッチタイル張りや青緑色の洋瓦葺、ステンドグラスを用いた洋風の外観となっています。現在は「桐生織物記念館」として一般公開しています。

無鄰館 ①

桐生市本町1-5-5
☎ 0277-44-0277

本町
エリア

交 桐生駅より徒歩20分

もとは「北川織物工場」といい、現在は「無鄰館」として建築設計事務所のほか彫刻家、画家たちの創作工房として利用されています。現存するノコギリ屋根工場は、大正5年(1916)に建築され、昭和35年頃まで操業していました。

白瀧神社 ①

桐生市川内町5-3288
☎ 0277-46-1111

川相広
エリア

交 桐生駅より車で15分

京都から織物技術を伝えたという「白瀧姫」など、伝説の織物の神をまつる神社です。境内には耳をあてると機音が聞こえたという「降臨石」と呼ばれる大岩や、樹齢300年以上といわれるケヤキがあり、神秘的な雰囲気があります。

織物参考館“紫” ①

桐生市東4-2-24
☎ 0277-45-3111

本町
エリア

交 桐生駅より徒歩15分

「織物参考館“紫”」は、森秀織物の旧釜場、旧整経場、旧ノコギリ屋根工場などを利用した体験型博物館です。館内では、染色や手織の体験や織物の歴史の学習、古織機などを見学することができます。

金谷レース工業株式会社 ①

桐生市東久方町1-1-55
☎ 0277-46-1111

本町
エリア

交 桐生駅より徒歩25分

明治時代初頭に創業された織物工場で、工場は大正8年12月完成し当初は6連のノコギリ屋根でした。市内に唯一現存するレンガ造りの鋸屋根工場で、現在は「ペーカリーカフェレンガ」として活用されています。

彦部家住宅 ①

桐生市広沢町6-877
☎ 0277-52-6596

川相広
エリア

交 北関道太田・桐生ICより車で15分

彦部家住宅は関東地方でも最古級の民家建物として有名ですが、この主屋の北側は江戸時代より染織工場として使用されていました。さらに、明治から大正にかけてはノコギリ屋根工場や寄宿舎、医務所を造築し、近代的な織物工場になりました。

桐生市の足跡

年代	出来事	スポット
縄文時代		ちあみがいいとせき 千網谷戸遺跡など (絹織記念館)
古墳時代		中塚古墳など (新里)
奈良時代		武井廃寺塔跡 (新里)
714年	上野ほか4国の調(税)が「あしぎぬ」とされる	
795年	美和神社 官社となる	
801年	山上の多重塔建立される	山上の多重塔 (新里)
1180年	桐生六郎が足利忠綱とともに源頼政と戦う	
1350年	桐生国綱が柄杓山城を築く	柄杓山城 (梅田) 桐生氏関連
1573年	桐生氏滅ぶ 由良氏の統治へ	鳳仙寺・青蓮寺・ 普門寺
1590年	徳川家康関東に入国 由良氏は牛久へ移封	
1591年	桐生新町の町立てがはじまる	重伝建地区
1600年	関が原の合戦に際し、 旗絹2,410疋献上	桐生天満宮
1661年	桐生領が館林藩領となる	
1656年	桐生新町で 牛頭天王祭礼を行う	桐生祇園のはじまり
1738年	西陣から高機が伝わる	栲機姫神社 (菱町)
1779年	桐生領が酒井忠休の 領地となる	陣屋跡
1877年	森山芳平ら ジャカード機を購入	桐生織物
1889年	両毛線開通	
1911年	足尾鉄道開通	
1913年	東武鉄道開通	
1919年	桐生倶楽部創立	桐生倶楽部
1921年	市制施行	
1928年	上毛電鉄開通	西桐生駅
1946年	岩宿遺跡が相沢忠洋により 発見される	相沢忠洋記念館
1953年	桐生が岡動物園開園	
1971年	桐生が岡遊園地開園	
1986年	桐生川源流が森林浴の森 百選に選ばれる	桐生川源流
2005年	ぐんま昆虫の森オープン	
2012年	桐生新町重要伝統的 建造物群保存地区選定	
2013年	篠原涼子さんを 桐生市観光大使に任命	